## 土曜開館 平成25年度 受講者の声

私は，教育センターの土曜特別セミナーで「体育科の体つくり運動～なわとびのいろいろ～」を受講しました。教えて頂いたゲームは楽しい中にも，スモールステップで課題にチャレンジできるように設定されており，「楽しい！面白い！」と感じてやっているうちにいつのまにかできるようになっていました。同じ内容でも段階を設定したり，スモールステップにするだけで，「やりたい！やって楽しい！」と感じられる内容に　変えることができるんだと学びました。

また，今回の研修では子どもの立場でも受講することができました。見知らぬ人達の中での緊張感，話ができるようになった喜びなど，教師として子どもの立場でものを考える習慣は大切にしたいと感じました。

私は，現在，特別支援学級の担任ですが，頂いた資料は，通常学級の先生に渡したり，研修内容をお伝えしたりして，楽しさを伝えています。学んだことを参考に，自分のクラスで実践できる内容に組み立ててみたいと考えています。

**井口明神小学校　教諭　山下　里紗子**

今年度から，学級担任となるため，どんな準備をする必要があるのか不安に思っていたところ，初任者研修で土曜特別セミナーの案内を見て，「これだ！」と思い，２人で受講を申し込みました。

セミナーでは，学級開きの１か月に焦点を絞って，学級経営の流れや具体的に取り組んでいく内容について学ぶことができました。また，自分と同じような状況の先生方と協議することで，たくさんのヒントをもらうことができ，不安な気持ちから解放されました。

４月，いよいよ学級開きの本番が来ました。教室環境を整え，生徒を迎えるための掲示物に力を注ぎました。一番印象に残ったのが，担任の願いである「限界の一歩先へ」（新田先生），「居心地のいい場所」（中谷先生）という言葉が入ったくす玉を用意し，みんなの前で披露した時の生徒の表情です。この表情が続く学級経営をしようと心に誓った瞬間でした。

今は，一人一人の生徒が自分の成長を見ることができるようにクラス写真を毎月撮影し，掲示しています。また，学級懇談会で，保護者に自分の子どもへ向けてメッセージを書いてもらい，教室に掲示しました。何も知らなかった生徒達は，とてもうれしそうに見ていました。これからも生徒達の目がキラキラ輝き続けるように新しいアイディアをたくさん生みだしていきたいと思います。土曜特別セミナー，お勧めです！

**可部中学校**
**教諭　新田　歌奈子，教諭　中谷　里沙**

## 土曜開館 平成26年度 御案内

| 日時 | テーマ | 研修の内容 |
|---|---|---|
| ６月２１日(土) | 特別支援教育 | 困った子（指導が難しい子）は，実は困っている子どもかもしれません。子どもがつまずいていること，困っていることに気付くヒントをお伝えします。 |
| ６月２１日(土) | ICT活用 | 教科の目標を達成するために有効にICTを活用する方法を学ぶことができます。 |
| ７月１９日(土) | コンピュータ研修 | Ｗｏｒｄの基礎的基本的な操作方法について，学ぶことができます。 |
| ９月２０日(土) | 板書 | 板書計画は，授業の構想を練ることに有効です。授業のねらいに応じた板書の在り方について学ぶことができます。 |
| １０月１８日(土) | メンタルヘルス(予定) | 今年は，講師をお呼びして，ヨガの体験を通して，ストレス･マネジメントについて学んで頂きます。心のリラクゼーションを体験してみませんか？ |
| １１月１５日(土) | 生徒指導・保護者対応(予定) | 生徒指導を行う際の大切な考え方，保護者と連携し，教育活動を展開する際の基本的な姿勢や考え方について学ぶことができます。 |
| １月１７日(土) | 掲示物 | 学校，学級の掲示物は，保護者，児童生徒への啓発活動です。環境づくりの側面から教育環境を整える技法を伝えます。 |
| ２月２１日(土) | 学級開き（小・中） | 学級開きは，先生と子どもたちとの出会いの場です。心に残る学級開きの方法を学ぶことができます。 |

多数の申込みをお待ちしております。申し込み方法については，Webで確認してください。

**題字**
砂谷中学校
校長　中村　耕三

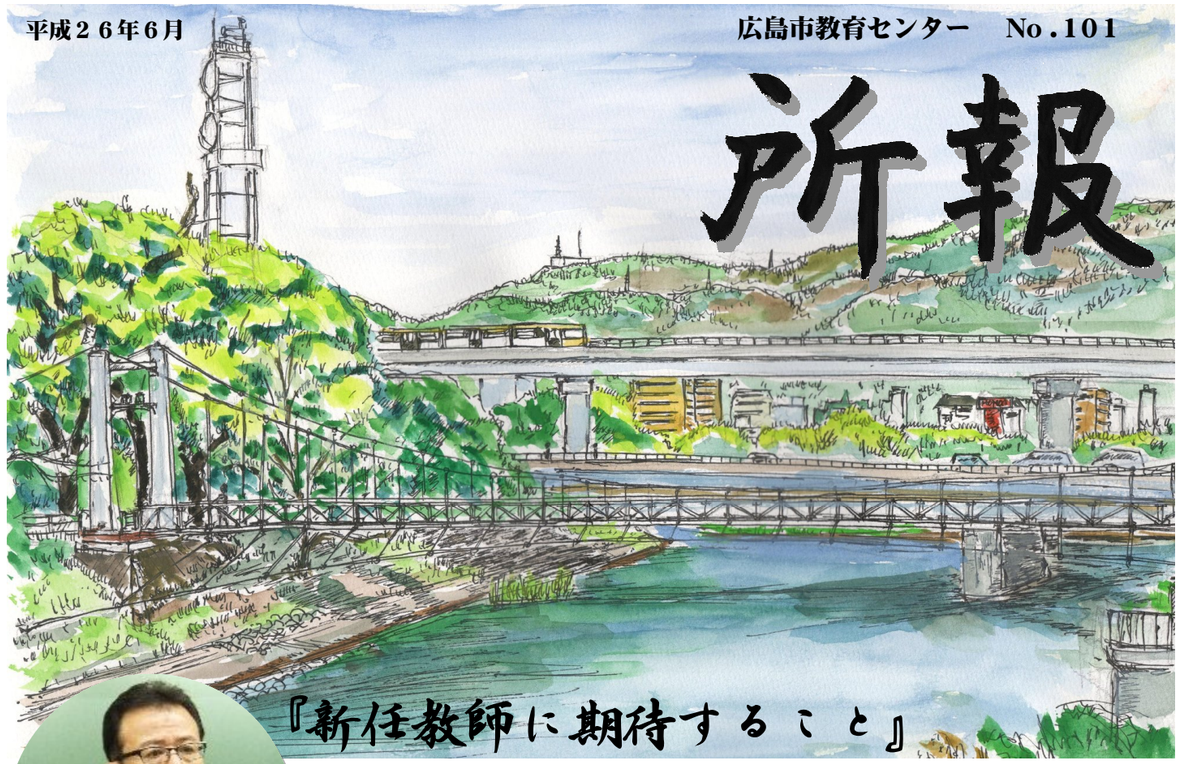
**表紙絵**
井口小学校
校長　中山　和一


編集・発行/広島市教育センター
〒732-0068　広島市東区牛田新町一丁目17番１号
TEL(082)223-3563 FAX(082)223-3580
E-mail:center@e.city.hiroshima.jp
外部Webページ:http://www.center.edu.city.hiroshima.jp/
内部Webページ:http://10.91.11.102/




平成２６年６月　　広島市教育センター　No.101

# 所報



## 『新任教師に期待すること』

この４月，本市では２７２名の新規採用の先生方が，緊張と不安の入り混じった気持ちで，一枚の辞令書を携え，赴任校の門をくぐりました。つまり教師としての第一歩を踏み出したのです。そこには，瞳を輝かせた子どもたちとのみずみずしい出会いがあり，生涯忘れることのできない感動があったと思います。

私は，先の初任者研修において，教育効果を高めるためには，教師の優れた授業力に加え，何よりも，子どもとの信頼関係が大切であり，そのためには，次の四つの視点が重要である旨のお話をさせていただきました。

１　子どものニーズをしっかり把握できる教師
　（教育的瞬間をとらえ，生かす）
２　子どもの行為は叱っても，人格はけなさない教師
３　子どもの心に届く伝え方ができる教師
４　子どもと同じ土俵に立たない教師

つまり，教師としての人間力を向上させていくことに他なりません。その後，こうした研修を終えて，先生方の心境はどのように変化しているかを確かめるため，昨年度の受講者が残したアンケート調査結果に目を通してみました。中でもある先生の次の一文が印象的でした。

> 「４月，様々な不安や期待，理想をたくさんもって辞令交付式に向かいました。働き始めた頃は，右も左もわからず手探りの毎日で，理想に近づけない自分に情けなくなったり，子どもたちとの関わり方に戸惑ったりと悩むことも多くありました。しかし，常に優しく指導していただく先生方のお陰で，日々を乗り越えることができました。それだけでなく，定期的にある研修で自分の実践に納得したり，改めようと思ったりすることで，成長できたと感じています。また，同じ初任の仲間と多く話し，自己開示することで一人ではないという気持ちと，いつでも相談できるという心強さが生まれました。今後も，この研修で得たことを生かしながら前進していきたいと思います。」

希望と不安の交錯する心境で教壇にたってから約一年，今は苦しみの中にも教職の喜びを見出そうとして，懸命に努力する教師の姿が心に浮かんできました。

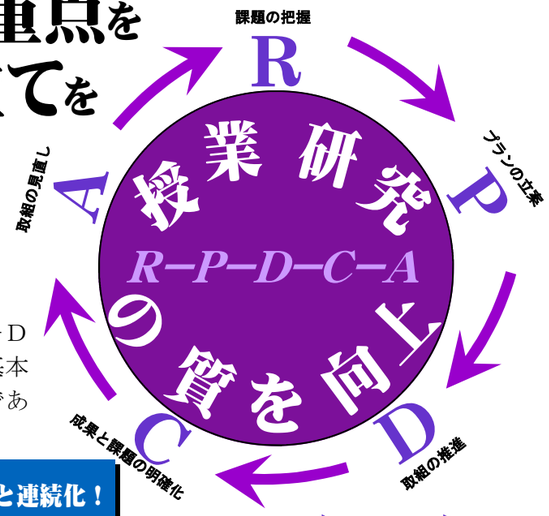
この感動と胸にともした意欲の灯を失わない限り，先の先生のように，時に迷い，時に悩むことはあっても，それを乗り越えていく自信と勇気が蘇えるであろうと信じてやみません。

「教育は人なり」と言われます。教師の人間性が子どもに与える影響力・感化力は測り知れないものがあります。新任の先生方には，子どもとの信頼関係を作るための四つの視点を常に意識し，教育への情熱，子どもへの深い愛情，そして粘り強い教育実践を心から期待しています。また，各園長・校長先生方には，これからの大量退職を見据え，新規採用教員を含む若手教員の人材育成により一層取り組んでいただくことを切に願っています。

教育センターとしても，こうした新任の先生方が，全力で日々の教育活動に打ち込み，その中で自己研鑽に励み，子どもたち，保護者，地域の方々から信頼される教師へと成長していけるよう，しっかりと支援していきたいと考えています。

所長　市川　昭彦

# まずは診断で実態を把握し，取組の重点を決定！ 次に，弱点克服のための手立てを選択して実践してみませんか！




教育センターでは，平成２５年度に小中学校１５校を指定校とし，サテライト研修を実施してきました。その指定校の先生方に御協力を頂き，この度，授業研究の質を向上させるための３つのポイントを整理しました。

教育センターは校内授業研究はＲ（課題の把握）－Ｐ（プランの立案）－Ｄ（取組の推進）－Ｃ（成果と課題の明確化）－Ａ（取組の見直し）という基本的な循環過程をベースにしながら，次に御紹介する実践を行うことが有効であると考えています。

**質の向上のための３つのポイント！** ▶ **①子どもの見取り！②教職員間の情報交換！③共有と連続化！**

## R 年度始めに診断し，年度末に評価することで，授業研究の質の変容を明らかにしましょう！

表１，表２は，授業研究の質を診断・評価するために作成した質問内容です。項目は，「授業研究の成果」「授業研究の目標・機能の共有」「教職員間の情報の交換」「成果と課題の連続化」「子どもに対する理解」の５つの項目で構成しています。年度始めに実施することで，各学校における授業研究の実態を診断することができます。また，年度末に再び実施し，１年間の取組の成果を検証する際にも有効に機能します。

表１は「授業研究の成果」に関する内容です。

**表１「授業研究の成果」に関する内容**

| | | |
|---|---|---|
| 1 | 自校では，提案授業を行った後に，協議会で出た改善策等を踏まえ，修正した授業を行っている。 | 項目１「授業研究の成果」 |
| 2 | 私は，授業研究を通して得た学びを，普段の実践の中で活用している。 | |
| 3 | 私は，授業研究を通して，教材研究を熱心に行うようになった。 | |
| 4 | 私は，授業研究を通して，授業研究をした教科の価値を見出すことができた。 | |
| 5 | 私は，授業研究を通して，自分の授業力への気付きが生まれた。 | |
| 6 | 私は，今後，機会があれば授業提案をしてもよいと考えている。 | |
| 7 | 自校の子どもたちは，授業研究を通して，変容した。 | |

表２は「授業研究の質の向上」を図るための手立てに関する内容です。

**表２「授業研究の質の向上」を図るための手立てに関する内容**

| | | |
|---|---|---|
| 8 | 自校では，研究主題が達成されたときの具体的な子どもの姿がイメージできている。 | 項目２「授業研究の目標・機能の共有」 |
| 9 | 自校では，研究主題を達成するための手立てが共有されている。 | |
| 10 | 自校では，円滑な授業研究の実施にむけて，全体会が機能している。 | |
| 11 | 自校では，円滑な授業研究の実施に向けて，研究（研修）部が機能している。 | |
| 12 | 自校の協議会では，感想や賛辞で終わることなく，研究主題の達成に向けた新たなアイディアが出ている。 | |
| 13 | 自校では，日頃から，授業や子どものことについて協議している。 | 項目３「教職員間の情報の交換」 |
| 14 | 自校では，日頃から，授業や子どものことについて，情報交換している。 | |
| 15 | 自校では，日頃から，同僚の実践や悩みについて相談している。 | |
| 16 | 自校では，協議会後，協議会での「成果」を，全員で再認識する方法がある。 | 項目４「成果と課題の連続化」 |
| 17 | 自校では，協議会後，協議会での「課題」を，全員で再認識する方法がある。 | |
| 18 | 自校では，前回までの研修で得られた成果と課題を受けて，協議会を行っている。 | |
| 19 | 私は，授業研究を通して，子どもたちのふるまいに対する理解に変化があった。 | 項目５「子どもに対する理解」 |
| 20 | 私は，授業研究を通して，子どもたちの学習状況に対する理解に変化があった。 | |

## P 項目の平均値を比較して取組の重点を定めましょう。

教育センターの内部Ｗｅｂに掲載している「診断・評価指標」は，５つの項目の平均値がレーダーチャートで現れるように設定しています。各学校における授業研究の質を向上させるための重点事項を５つの項目のバランスから判断してみてください。

教育センターの研究の成果からは，**項目１の授業研究の成果を実感できるようにするため**には，次の３つのポイントが重要であることが明らかになっています。

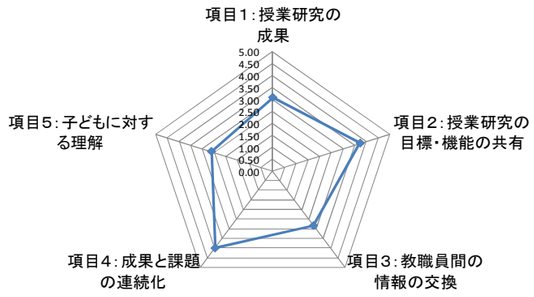
**①「子どもの見取り」を充実させること**

項目１を肯定的に回答している人は，項目５も肯定的に回答しており，強い相関関係がありました。子どもの変容を見えるようにすることが成果の実感に繋がります。

**②「教職員間の情報交換」を図ること**
**③「共有と連続化」を図ること**

項目１を肯定的に回答している人は，項目３も肯定的に回答しており，強い相関関係がありました。また，項目３と強い相関関係があったのが，項目２と項目４でした。組織を機能させ，目標を共有し，成果や課題を連続させること，このことについて日常的に情報交換を図ることが有効だといえます。

**診断**




## D 弱点になった項目を強化するための具体的な手立てを実践しましょう。 C A

各学校で重点課題を把握し，その結果に基づいて強化のための手立てを講ずる必要があります。

表３には，校内研修を充実させるための具体的な手立てを記載していますので，各学校の実態をふまえ，重点課題に応じた手立てを選択し，実施してみてください。

**表３　校内研修を充実させるための２３の方策**

| 項目 | | 手立ての具体化 |
|---|---|---|
| 項目２ | 「授業研究の目標・機能の共有」 | 1　学校の課題に即した教育研究の方針を立案する。<br>2　目指す子ども像の実現に向けた研究主題を設定する。<br>3　ワークショップによる研究主題の見直しを行う。<br>4　研究の成果を検証する方法を定める（目標設定）。<br>5　協議の方法を目的に応じて設定する。<br>6　校長の方針（学校教育目標，学校評価等）との関連を図る。<br>7　参画意識を高める（協議会で全員が発言できるシステムを構築）。<br>8　授業研究の意義や価値に関する理論研修を実施する。<br>9　目的に応じた手立ての設定（関連性を省察する）。 |
| 項目３ | 「教職員間の情報の交換」 | 10　模擬授業の実施等，事前検討の在り方を検討する。<br>11　学習指導要領の解説を行う指導主事的な役割を担う者を設定する。<br>12　授業者の思いをくみ取り，調整するファシリテーターの役を置く。<br>13　授業の前日までに授業者が提案授業の意図を説明する機会を設ける。<br>14　研究主任，研究部との事前調整を図り，協議会の意図を明確にする。 |
| 項目４ | 「成果と課題の連続化」 | 15　校内授業研究シート等，ポートフォリオを活用して学びを連続させる。<br>16　ペア・グループ等を活用して協議会の最後に振り返りを行う。<br>17　当日の協議会の在り方，次回の協議会の在り方等に関し検討する。<br>18　できていること，課題，今後取り組むことを記載するチェックシートを作成する。<br>19　前期までの達成状況を中間報告する場を設ける。<br>20　アンケートによる意識調査を実施し，成果と課題を客観視する。 |
| 項目５ | 「子どもに対する理解」 | 21　評価問題を作成し，客観的な実態把握と達成状況を把握する。<br>22　授業参観の際，見取る児童生徒を固定し，行動を観察，記録する。<br>23　前半は，子どもの事実，後半は事実からの意見という二段階の協議会を実施する。 |